

科目名	国内地理											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		松藤 諭			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		旅行会社で、営業として勤務			
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	国内の都道府県の場所、県庁所在地学び、国内の世界遺産、観光地の説明ができるようにする											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					国内空港の3レターコードを答えることができる。						
	○					各空港の所在地と名称が答えることができる。						
	○	○				都道府県の場所が答えられる						
	○					都道府県の県庁所在地が答えることができる						
	○	○				国内の世界遺産の名称と場所を一致させることができる						
テキスト・教材 参考図書	プリント教材											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	授業概要・シラバスの説明					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	2	九州地方					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	3	沖縄・離島(鹿児島島の離島を含む)					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	4	中国・四国地方					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	5	小テスト① (2回目～4回目)					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	6	関西地方①					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	7	中部地方					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	8	甲信越地方					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	9	小テスト② (6回目～8回目)					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	10	関東地方①					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	11	関東地方②					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	12	東北地方					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	13	北海道地方①					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	14	北海道地方②					1週間に起こった興味あるニュース・出来事の準備・3 レターコード・2レターコードの予習、復習(0.5時間)					
	15	小テスト③ (10回目～14回目)										
評価方法	(1)小テスト(確認テスト)を3回実施する。(2)授業開始の際、最近興味をもったニュース、出来事を各自発表。 (3)定期試験を実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								50%
	確認テスト(小テスト)			○				◎				30%
	授業中の発表	○						◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	航空概論									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		井口 健太	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科 1年									
授業概要	航空(空港)基礎知識及び航空機の到着から出発までの各業務、注意事項を理解する。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					基本的な業務理解及び知識を習得する。				
					○	航空輸送サービス従事者として、社会インフラの重要性を認識させる。				
テキスト・教材 参考図書	プリント教材									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	空港内及び航空関連業務					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	2	航空機機種、機種特性					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	3	空港地上支援器材(特殊車両)、航空(空港)用語					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	4	空港3レター/航空2レター、航空(空港)用語					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	5	グランドハンドリングサービスの作業工程管理					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	6	航空貨物輸送の基礎					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	7	ウェイト&バランス(重量管理)					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	8	関連法規					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題・発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○						70%		
	宿題・発表					○		30%		
履修上の注意	3回以上欠席した場合は、単位付与なし。									

科目名	空港実務 I A											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		河野 浩一			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		エアラインのグループ企業にて、グランドハンドリング業務に従事			
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	グランドハンドリング業務を理解し、空港地上支援業務従事者としての基礎知識を学び、理解を深める。											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					航空用語を理解し、それを使い会話ができる						
	○					航空機地上支援機材を理解し、各作業での役割を説明することができる						
	○					航空機及び空港内の設備を理解し、資料を基に説明することができる						
	○	○				グランドハンドリング業務を理解し、作業の工程を説明することができる						
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」 日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	グランドハンドリングの概要										
	2	グランドハンドリングの概要(航空用語 空港/エアライン)					エアライン・空港コードを覚える(0.5時間)					
	3	グランドハンドリングの概要(航空用語 空港/エアライン)					ULD タイプを覚える(0.6時間)					
	4	グランドハンドリングの概要(航空用語 ULD)										
	5	グランドハンドリングの概要(航空用語 ULD)										
	6	CARGO COMPARTMENT(貨物室)										
	7	CARGO COMPARTMENT(貨物室)										
	8	空港規則										
	9	空港規則										
	10	空港内ランプの表示や標識										
	11	空港内ランプ・誘導路などの表示や標識										
	12	空港内ランプ・誘導路などの表示や標識										
	13	航空機地上支援機材										
	14	航空機地上支援機材										
	15	搭載・取り降ろし作業・振り返り・理解度テスト										
評価方法	(1)授業中での口頭質問 (2)授業の中で理解度テストを実施 (3)定期試験の実施 以上を、以下の観点・割合で評価する。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎									70%
	理解度テスト(筆記/1回)		◎									20%
	授業中の質問		◎		○				○			10%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	エアクラフト									
科目名(英)	AIRCRAFT									
単位数	1		時間数	15時間		担当者	井口 健太			
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	エアポート科 1年生									
授業概要	日本の各空港で運航されている航空機の代表的な機種の機体構造/エンジン/燃料/ランディングギア/油圧/圧縮空気/ドアなど各システムやATA No.についてグランドハンドリング業務に従事する上で必須の事項について基礎知識を理解する。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					グランドハンドリング業務に従事する上で、航空機構造の基礎知識習得することができる。				
					○	交通インフラサービスに携わる上で、安全性並びに社会的側面の重要性を認識することができる。				
テキスト・教材 参考図書	プリント教材及び日本航空技術協会改訂3版 空を飛ぶはなし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	B744各部の名称と仕組み、ATA No. 航空機が飛ぶために必要な物(条件)					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	2	模型を使用した機体構造全般 航空機整備とは 航空機クリーニング					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	3	航空機に使用される液体/気体/材料/新素材					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	4	各部の構造説明 構造による種類 胴体 翼 水平尾翼 垂直尾翼 窓					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	5	推進装置 エンジンの分類 オイルの目的とシステム					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	6	燃料装置 燃料の種類 同電位と水汚染 油圧装置/長所・短所					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	7	電気装置 直流/交流/ 三相交流 圧縮空気装置 客室と圧 エアコン					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	8	給排水装置 トイレ構造 給水構造 各部ドア構造/CABIN・CGO					プリント教材を事前に読んでおくこと			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○					70%		
	宿題・発表					○		30%		
履修上の注意										

科目名	英語検定(2級)対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	岡本 彩 石田 小雪
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	岡本:大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアポート科1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)					
事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト公式問題集				
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト			
	2	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検模擬試験 問題1 筆記			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問1、2			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	英検模擬試験 問題1 モデルライティング練習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	英検本試験解説 大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

授業計画	22	英検本試験解説 大問2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	23	英検本試験解説 大問3	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	24	学外英語研修	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	25	英検本試験解説 モデルライティング練習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	31	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	32	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	33	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	34	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	35	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	36	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	37	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	38	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	39	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	40	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	41	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	42	TOEIC模擬試験 問題1 筆記	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	43	TOEIC模擬試験 問題1 リスニング 解答＆解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	44	TOEIC模擬試験 問題1 解答＆解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	45	前期まとめ					
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検2級完全合格を90点、1次合格を85点、1次不合格のバンド1～3は80点～75点、バンド4～6は75点～70点、バンド7以下は65点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定対策(TOEIC) I A				
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	和田 菜穂
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアポート科1年				
授業概要	国際国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。				
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
目標					
社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む)					
・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。					
・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。					
社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く)					
・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。					
・入国管理官に、滞り場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。					
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベル分けテスト			
	2	TOEIC学習目標と出題形式、解法のテクニック、Part5対策、ボキャブラリー、WORD FORM(品詞、派生語)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	3	Part5対策、ボキャブラリー、前置詞、リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	4	Part5対策 ボキャブラリー 接続詞 前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	5	Part5対策 ボキャブラリー 動詞、助動詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	6	Part5対策 ボキャブラリー 代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	7	Part5対策 ボキャブラリー 形容詞、副詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	8	Part5対策 ボキャブラリー 冠詞、序数			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	9	Part5対策 ボキャブラリー 比較級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	10	Part5対策 ボキャブラリー 最上級			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	11	Part5対策 ボキャブラリー 形容詞、副詞、比較級、最上級 リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	12	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	13	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	14	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞、分詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	15	Part5対策 ボキャブラリー 関係代名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	16	Part5対策 ボキャブラリー 関係副詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	17	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	18	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	19	Part7対策 ボキャブラリー 文法(話法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	20	Reading part5対策 ボキャブラリー			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	21	Reading Part5対策 ボキャブラリー リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	22	Reading対策 ボキャブラリー Skimming Scanning			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	23	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	24	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。

	25	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	26	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	27	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	28	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	29	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	30	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	31	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	32	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	33	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	34	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	35	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	36	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	37	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	38	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	39	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	40	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	41	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	42	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	43	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	44	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	45	定期試験対策 学期総括					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC(IP)	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		10%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(準2級)対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	野々村賢一
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	英語講師21年
対象学科・学年	エアポート科1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)					
電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション			
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	21	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	24	学外英語研修			予習、復習を行って授業に臨むこと。

	25	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	26	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	27	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	28	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	29	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	30	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	31	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	32	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	33	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	34	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	35	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	36	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	37	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	38	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	39	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	40	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	41	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	42	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	43	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	44	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	45	前期まとめ	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検準2級完全合格を85点、1次合格を80点、1次不合格のバンド-1は75点、バンド-2は73点、バンド-3は70点、バンド-4は68点、バンド-5は65点、バンド-6は63点、バンド-7以下は60点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	国内研修旅行										
科目名(英)											
単位数	0単位		時間数		30時間		担当者				
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	エアポート科1年										
授業概要	羽田・成田・佐賀空港の国内主要空港及びローカル空港に於いて空港内制限区域内にて実際の業務見学並びに企業による研修を受講する。業界理解を深めると共に今後の就職活動に活かす。										
授業形式	講義：△		演習：		実習：○		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					国内主要空港及びローカル空港での業務理解を深め、説明することができる。					
	○					研修旅行レポートを作成し、業界概要を説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	国内研修旅行概要説明									
	2	国内主要空港及び地方空港について									
	3	空港に於ける業務の種類の学習と理解(佐賀空港)									
	4	空港に於ける業務の種類の学習と理解(羽田空港)									
	5	空港に於ける業務の種類の学習と理解(成田空港)									
	6	実地研修									
	7	実地研修									
	8	実地研修									
	9	実地研修									
	10	実地研修									
	11	実地研修									
	12	研修旅行での学習内容確認と整理									
	13	研修旅行レポートの作成									
	14	研修旅行レポートの発表と共有									
	15	研修旅行全体の振り返りと就職活動に向けての行動目標設定									
評価方法	(1)事前学習内容の理解度テスト (2)研修旅行レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	レポート	◎		○							50%
	発表			◎				○			50%
履修上の注意	研修旅行不参加の場合は、事前の学習内容と情報共有発表の内容に対するレポートにて評価を行う。										

科目名	一般教養ⅠA											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		瀧口 恵子			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の企業の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。											
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					漢字検定準2級程度の漢字までの読み書きができる。						
	○					方程式・因数分解などの問題を理解し解答することができる。						
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる。						
	○					日本をはじめとした主要国の地理や政治についての基礎的な内容を理解し説明ができる。						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	科目概要・シラバス説明					次回学習部分に目を通しておく(0.5時間)					
	2	ROUND1:漢字の知識、英語(動詞の活用変化)、主な国際機関について、時事用語					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	3	ROUND2:社会(環境問題、選挙について、国内政治について、宗教)、漢字の知識					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	4	ROUND2:英語(英文書き換え)、敬語表現、文学史					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	5	ROUND3:英語(単語の知識)、社会(憲法に関して、思想)、国語(漢字の知識、四字熟語)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	6	ROUND4:社会(歴史、国際連合について)、文学史					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	7	ROUND4:社会(歴史、地理)、計算問題(分数) ROUND5:国語(漢字の知識)、時事問題					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	8	ROUND5:社会(世界の発明家について)、英語(動詞の活用変化、時制、仮定法) ROUND6:主な国際機関、英語(空所補充)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	9	ROUND7:国語(四字熟語)、社会(各国の歴史と現在の状況、名言、名句) ROUND8:国語(ことわざ)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	10	ROUND8:社会(天皇の国事行為について、内閣について、歴史)、英語(単語の知識) ROUND9:英語(熟語の知識)、時事問題、数学(損益算)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	11	ROUND9:社会(歴史、国内経済)、数学(指数、割合)、英語(空所補充)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	12	ROUND10:英語(単語の知識)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	13	ROUND10:社会(経済)、数学(√の計算)、国語(漢字の知識)					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	14	ROUND10:社会(各国の歴史と現在の状況)、英語(空所補充)、時事問題					テキストの該当部分の復習(0.5時間)					
	15	ROUND1～10のまとめ					試験範囲の部分の復習(1.5時間)					
評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト (3)出席状況を意欲点として評価 ※出席状況:皆勤→100点、1回欠席または遅刻3回以内→80点、2回～3回欠席または4～5回遅刻→70点 (遅刻と欠席、両方ある場合は、どちらか多い方) 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		○				○				80%
	小テスト(2回)	◎		○				○				10%
	出席状況							○				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	SPI I A						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	未定
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科1年						
授業概要	航空業界への就職試験では、多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されている。その際、制限時間内に正確な解答を導き出す力が必要である。この授業では、SPI非言語分野の頻出テーマをとりあげ、その解き方を学ぶ。また、近年多く実施されているWEBテストでの四則逆算問題対策として、この授業では時間内に目標数の四則演算問題を解けるようになる。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える。	
		○				各問題に対する基本的な解き方を覚えた上で、応用問題にも活用できる。	
		○				四則演算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。	
		○				SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を他者に対して説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第1回レベルチェック(クラス分け)テスト					特になし。
	2	速さ(基本公式の確認・速さの変換)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。(0.5時間)
	3	速さ(往復の速さ・応用問題)、旅人算(基本公式の確認)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	4	旅人算(出会い算・追いかかけ算応用問題)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	5	場合の数・確率					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	6	確率					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	7	前半範囲のまとめ					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	8	第2回レベルチェック(クラス分け)テスト					速さ～集合の範囲まででテストを実施する為、復習をしておくこと。(3時間)
	9	集合					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	10	仕事算					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	11	損益算(基本用語・公式の確認、基礎問題演習)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	12	損益算(応用問題)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	13	代金精算・割引料金・推論(正誤判断)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	14	推論(順番推理・内訳推理)					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
	15	前期範囲のまとめ					テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)宿題を課す。 (3)中間テストとして、第2回レベルチェックテストを実施する。(4)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	中間テスト (第2回レベルチェックテスト)	◎	◎				20%
	出席状況	○			◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Word						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山田 智子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科1年						
授業概要	パソコンの基本になるマウスの正しい操作方法や文字の入力を学習する。入力に関しては、タッチタイピング（キーボードを見ないで文字入力）をすることが実務で必要になるので、タイプクイックソフトを使いマスターする。また、文字入力は後期に学習する航空券の発券業務に必要となるので、ヘボン式のローマ字入力を正確に学ぶ。テキストを使って一般的なビジネス文書（社内文書・社外文書）や表の作成方法を学習する。ビジネス文書作成上のマナーを学習する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				マウス(パソコンの基本操作)を正しく操作できる。	
			○	○		キーボードを見ないで文字入力ができる。	
		○	○			ヘボン式ローマ字で文字入力ができる。	
	○					ビジネス文書の社外文書と社内文書の違いを説明することができる。	
	○	○				ビジネス文書作成に必要な文字入力や編集機能を効率的に操作できる。	
テキスト・教材 参考図書	Word2019クイックマスター（基本編）、Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要の説明とパソコンの基本操作					
	2	タイプクイックの設定と操作				毎日15～20分タイプクイックの練習をする。	
	3	タイプクイック・Word2016の基本操作				毎日15～20分タイプクイックの練習をする。	
	4	タイプクイック・Word_ローマ字入力				毎日15～20分タイプクイックの練習をする。	
	5	タイプクイック・Word_いろいろな文字入力				毎日15～20分タイプクイックの練習をする。	
	6	タイプクイック・Word_効率的な文字の訂正				毎日15～20分タイプクイックの練習をする。	
	7	Word_文章入力・入力練習問題・タイプクイック成績提出				テキスト記載の実習問題6～17を完成させる(1時間)	
	8	文字編集機能・入力速度テスト(小テスト1回目)				テキスト記載の実習問題6～17を完成させる(1時間)	
	9	文書作成_社内文書の作成・社内文書の特徴について				テキスト記載の実習問題18を完成させる(1時間)	
	10	文書作成_社外文書の作成と作表・社外文書の特徴について				テキスト記載の実習問題19を完成させる(1時間)	
	11	文書作成_画像・テキストボックスの挿入・文書作成練習問題				テキスト記載の実習問題20～22を完成させる(1時間)	
	12	文書作成テスト(小テスト2回目)・作表機能の学習					
	13	オブジェクトを含んだ文書作成_画像の挿入と編集・ワードアート				テキスト記載の実習問題24を完成させる(1時間)	
	14	オブジェクトを含んだ文書作成_図形描画				テキスト記載の実習問題25,27を完成させる(1時間)	
15	期末実技試験						
評価方法	(1)タイプクイックの成績提出(Lesson6まで、正解率95%以上)とタッチタイプの習得。 (2)授業内容の把握状況を確認する小テスト(入力・文書作成)を2回実施する。 (3)課題提出テキスト「30時間でマスター Word2016」内の入力練習文・ビジネス文書作成の練習問題の8割以上。(最終授業終了時にメモリ提出。期限までに提出することも評価条件に含む。) (4)作表や画像を含む文書作成の実技問題を期末試験とする。 成績評価基準は、成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○	◎	◎			50%
	タイプクイックとタッチメソッド			◎	◎		10%
	小テスト	○	○	◎			20%
	課題提出		○	◎	◎		20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、評価はDとする。
タッチメソッドは継続したトレーニングによって習得できる物なので、毎日15～20分程度の自主トレーニングが必要である。
公欠でテスト(小テストを含む)を受験できない場合は前もって講師に相談すること。

科目名	コミュニケーション技法										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		小川 果		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	エアポート科1年										
授業概要	コミュニケーションとは何か、より良いコミュニケーションの為に大切なことは何かを理解する。言いたいことと、言うべきことを明確かつ簡潔に相手に伝えることができるようにする。言語表現を高めることにより、セルフエスティームを向上させ、新たな社会で生きていく自信をつけさせる。社会での事象への関心を深めさせ、自分と社会を関連付けて考えることができるようにする。										
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					1対1での対話がきちんとできる。					
	○					自らの意見、考え方、価値観を開示することができる。					
		○				人の話をしっかり聞き、考え方や価値観の多様性を理解できる。					
		○				ニュースに関心をもち、社会的存在としての自分に気づくことができる。					
		○				自分とは何か、自分とはどんな人間か、より深く考えることができる。					
テキスト・教材 参考図書	なし										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	社会とはなにか 社会とは？ 家庭とは？ クラスとは？					授業内容の復習(0.5時間)				
	2	何を学ぶか 何を手に入れたいか？ コスト意識を持て					授業内容の復習(0.5時間)				
	3	コミュニケーション(1) マナー、返事、1対1で話す					授業内容の復習(0.5時間)				
	4	コミュニケーション(2) 聞く、質問する					授業内容の復習(0.5時間)				
	5	コミュニケーション(3) 相手の話を要約する					授業内容の復習(0.5時間)				
	6	コミュニケーション(4) 実践報告					授業内容の復習(0.5時間)				
	7	スピーチ(1)「物」を媒介にして自分を伝える①					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	8	スピーチ(1)「物」を媒介にして自分を伝える②					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	9	スピーチ(2)「言葉」を媒介にして自分を伝える①					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	10	スピーチ(2)「言葉」を媒介にして自分を伝える②					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	11	スピーチ(3)「ニュース」を媒介にして自分を伝える①					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	12	スピーチ(3)「ニュース」を媒介にして自分を伝える②					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	13	自己紹介 あなたはどんな人ですか？					発表内容をまとめておく(0.5時間)				
	14	グループディスカッション					授業内容の復習(0.5時間)				
	15	社会とは何か 社会人となるため留意するポイント					授業内容の復習(0.5時間)				
評価方法	(1)出席状況を意欲点として評価 (2)平常点(発表の回数) (3)技能点(各課題ごとに評価)以上を、以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	出席状況				◎		30%				
	平常点(発表の回数)		○		◎		30%				
	技能点	◎	○				40%				
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	ペン字											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		15		担当者		入江 陽子			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		書道講師歴37年			
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	・航空業界で働く者として、日常生活における硬筆書写の一般知識・理解を深め、業務遂行時に実践できる基礎力を習得する。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り、書写することにより集中力を身につける。											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					正しい言語づかいで、自分の履歴書を書くことができる。						
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる。						
テキスト・教材 参考図書	なし											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	ペン字基本 ― 氏名練習、履歴書書式					ボールペンの練習をしておくこと。 (0.5時間)					
	2	ペン字基本 ― 基本点画					氏名の練習を復習しておくこと。 (0.5時間)					
	3	ペン字基本 ― 基本点画・筆順					基本点画を復習しておくこと。 (0.5時間)					
	4	ペン字基本 ― 字形の整え方、字形24体					筆順を復習しておくこと。 (0.5時間)					
	5	ペン字基本 ― 字形の整え方、へんとつくり					字形の整え方を復習しておくこと。(0.5時間)					
	6	ペン字基本 ― 平仮名の字源、片仮名					平仮名の復習をしておくこと。(0.5時間)					
	7	履歴書 ― 履歴書を体裁よく書くコツ					履歴書の必要事項を調べておくこと。(0.5時間)					
	8	履歴書 ― 履歴書ペン書き練習					履歴書の下書きを仕上げておくこと。(1時間)					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験の代わりとして評価する。 (2)数回、課題を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	履歴書	○				◎						80%
	提出物	○		○				◎				20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。											

科目名	社会教養ⅠA											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		瀧口 恵子			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	麻生塾の規則を知る。学科の特性を知る。社会人基礎力として、自らの責任において行動できる積極性や良好な人間関係を構築できるコミュニケーション力などを養う。											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
			○			目標を設定し、達成に向けた行動を行うことができる。						
		○				就職活動準備に向けて、情報収集・共有を行い、希望職種についての理解を深めることができる。						
			○			作文の書き方を学び、課題作文を行う。インターンシップ用の自己紹介シートを作成できる。						
			○			クラスで方向性を共有し、協調性を深め協働の意識をもった行動ができる。						
テキスト・教材 参考図書	なし。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	学則について(ルールとマナー)					学生便覧を読む、目標を考える(0.5時間)					
	2	目標設定、クラス内での役割					自己紹介の内容を考える(0.5時間)					
	3	作文・自己紹介シートの書き方、自己表現の方法					作文の内容をまとめる(0.5時間)					
	4	作文下書き作成					作文清書準備(0.5時間)					
	5	作文清書										
	6	企業インターンシップについて					自己紹介シートの内容の準備(0.5時間)					
	7	自己紹介シート下書き作成					自己紹介シート下書き作成(1時間)					
	8	自己紹介シート清書・提出					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	9	就職準備：航空業界求人に関して					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	10	就職準備：航空業界で求められる人材について					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	11	国内研修旅行の案内と意義について					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	12	就職準備：昨年度の状況と今年度の動向と対策					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	13	就職準備：過去の就職実績、企業ごとの対策					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	14	就職準備：提出書類に関して					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
	15	前期内容の振り返りと夏休みの補講など、今後のスケジュールに関して					キャリアサポートセンターを活用し、企業研究(金)(0.5時間)					
評価方法	(1)出席状況を意欲点として評価 (2)作文 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	出席状況								○		20%	
	作文		◎						○		80%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位認定なし。											

科目名	GCB I											
科目名(英)	Global Citizen Basic I											
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		瀧口恵子			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	エアポート科1年											
授業概要	自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーションなど、社会で生き抜くうえでの「人間力」の根本は、自分の環境における感謝の気持ちにある。日常生活の中で「与えられることが普通」と思ってしまう「他社依存」から脱却し、周囲との協働を保ちつつ使命感を持って行動できる自立心を育む。											
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
			○			自分を取り巻く環境全てに感謝をし、自ら考え、気づき、行動に移すことが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	「グローバル シティズン ベーシック I ～感謝心と思いやりの教育～（学生テキスト）」											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	グローバルシティズンを目指そう					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	2	「協働」の意識をもった学生生活の重要性					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	3	より良い人間関係の構築に向けて ～モラル・ルール・マナーの重要性～					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	4	マナーの本質 ①					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	5	マナーの本質 ②					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	6	グローバルシティズンとしての日常					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	7	グローバルシティズンとしての目標					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	8	発表					振り返りレポートの作成(0.5時間)					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)レポートの作成(8回) (2)最後の授業で発表 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとする											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	レポート作成(8回)		◎				○				50%	
	発表						○				50%	
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。											